

# 工事委託契約の締結について（災害廃棄物処理施設建設工事等を含む

## 災害廃棄物処理業務（気仙沼ブロック（気仙沼処理区））の概要

平成 24 年 5 月 24 日 環境生活農林水産委員会資料／環境生活部



階上地区二次仮置き場



小泉地区二次仮置き場

### 目次

1. 気仙沼処理区の概況	
(1) 発生量	1
(2) 業務範囲	1
(3) 処理フロー	1
2. 災害廃棄物処理業務の概要	
(1) 二次仮置き場の施設配置計画	2
(2) 業務の実施工程（予定）	3
(3) 運搬移動計画	3
(4) 中間処理計画	4
(5) 原状復旧計画	5
(6) 環境への配慮	6～7
(7) 仮契約概要：業務価格の内訳	7
3. 地元経済への波及効果	
(1) 地元企業との連携	8
(2) 地元雇用	8
4. 災害廃棄物処理業務（気仙沼処理区）におけるプロポーザル審査の概要	
(1) プロポーザル審査委員会の設置	9
(2) 事業者求められる技術提案の内容	9
(3) 業務受託候補者の決定方法	9
(4) 契約までの流れ	9
(5) 審査の考え方	9
(6) 審査委員会	9
(7) 審査結果	9～10

## 2. 災害廃棄物処理業務の概要

### ■ 自主管理基準を設けて安全側の周辺環境モニタリングを実施

災害廃棄物処理業務を実施するにあたって、定められたモニタリング項目と測定頻度を満たすだけでなく、企業体が独自に管理項目を追加すると同時に、その測定頻度を高くすることで安全側の管理を行う。

### ■ 処理事業の見える化の推進（安全見守り協議会の設立、ホームページ開設、施設見学会実施）

（仮称）気仙沼災害廃棄物処理連絡協議会を設置し、安全衛生管理、交通安全対策、暴力団対策、防犯対策、地元企業活用等の要望を受け、協議調整する場を設ける。さらに、一次仮置き場撤去の優先順位の確定や、原状復旧計画、復興資材の提供など、地元の復興に役立つ活動を展開する。

本業務が安全、安心に管理されていることなどを「見える化」して、地元の方々に安心していただくために「安全見守り協議会」を設立して、地域の方々に参加して頂く。騒音・振動、粉じん、放射線量等の観測データを公開し、メンバーの方には測定器を貸出して、測定・管理を企業体と一緒にさせていただくことで、信頼関係を構築しながら事業を推進する。



図 2.26 放射線量測定器の例



図 2.27 住民による周辺環境モニタリングの例

### 2) 作業環境の保全

災害廃棄物を処理するという本業務の特徴や、災害廃棄物の仮置き場の立地環境などを考慮し、作業員が快適に作業を行うことができるように衛生面などの整備を行う。



図 2.28 快適な作業環境のイメージ



図 2.29 エアシャワー室（例）

エア吹き出し孔



図 2.30 シャワールーム（例）

### 3) 地球環境の保全

廃棄物運搬車両や作業用重機、発電機、焼却炉等について様々な取り組みを行うことで、温室効果ガスの排出量を 11% (6,562ton-CO<sub>2</sub>) 低減する。



表 2.4 温室効果ガス削減量

場所	使用機械	対策項目	CO <sub>2</sub> 排出係数 (kg-CO <sub>2</sub> /L)	無対策時		対策による CO <sub>2</sub> 削減率	CO <sub>2</sub> 削減量 [t-CO <sub>2</sub> ]	
				燃料使用量 (kL)	CO <sub>2</sub> 換算量 [t-CO <sub>2</sub> ]			
場外	ダンプトラック	エコドライブ教育	2.62	5,923	15,517	10%	1,552	
場内	油圧ショベル	エンジン出力制御カバー eco-8 を使用	2.62	4,778	12,517	10%	1,252	
	油圧ショベル、油圧式クレーン他	燃焼促進剤 KS-1 を添加	2.62	6,337	16,598	10%	1,660	
	油圧式クレーン	油圧式クレーンの現場駐機	2.62	10	26	81%	21	
	発電機		燃焼促進剤 KS-1 を添加	2.62	3,308	8,666	10%	866
			容量低減装置を設置	2.62	2,977	7,800	10%	780
			バイオディーゼルを添加※	2.62	48	124	4.6%	124
焼却炉		排ガスの熱を温水として回収	2.62	108	307	100%	307	
合計			—	23,489	61,555	11%	6,562	

### (7) 仮契約概要

業務番号	平成 24 年度環災第 4-262 号
業務の名称	災害廃棄物処理業務（気仙沼ブロック（気仙沼処理区））
契約の相手方	大成・間・五洋・東急・西武・安藤・深松・丸か・小野良・阿部伊 特定業務共同企業体
契約予定額	48,405,000,000 円（税込み）
契約期間	議決の日の翌日から平成 26 年 3 月 25 日まで

表 2.5 業務価格の内訳（単位：億円）

項目	金額
直接工事費	
二次仮置き場の造成（原状復旧含む）	57.1
処理施設建設	116.5
一次仮置き場から二次仮置き場への災害廃棄物等運搬	30.8
二次仮置き場での処理及び運営・維持管理	83.0
副生成物の再利用最終処分	97.4
運搬道路及び二次仮置き場内の整備補修及び清掃	7.1
環境セルフモニタリング	11.4
小計	403.3
共通仮設費	15.3
現場管理費	35.3
一般管理費	7.1
業務価格	461.0
消費税相当額	23.1
業務委託費	484.1

4. 災害廃棄物処理業務（気仙沼ブロック（気仙沼処理区））におけるプロポーザル審査の概要

災害廃棄物処理業務（気仙沼ブロック（気仙沼処理区））プロポーザル審査基準

提案の審査における評価項目及び評価のウェイトは次の通り。

評価項目		評価内容		
項目	細別	評価指標	ウェイト	
業務の基本的事項	① 業務の基本方針	要求水準書の主旨を理解し、業務を十分に遂行できる提案が行われているかを評価する。	2.0%	
	② 業務の実施工程	要求水準書に規定する期間内で、早期着工・早期完了等のスピード感に配慮しつつ、災害廃棄物等を適正に処理できる提案が行われているかを評価する。	2.5%	
	③ 業務の実施体制	業務の実施に際し、複数の会社との連携を図るとともに、適正な技術者を配置し、確実な業務実施体制が構築されているかを評価する。	3.0%	
小計			7.5%	
災害廃棄物等処理業務計画	④ 自区内処理計画	災害廃棄物等の処理の優先順位が、自区内リサイクル（再利用・再生利用）、自区内処理（焼却処理等）、自区外リサイクル、自区外処理となっており、処理委託先において適正に処理できる計画が提案されているかを評価する。	7.5%	
	⑤ 運搬移動計画	災害廃棄物等の搬入及び処理後物等の搬出について、ブロック内等の道路概況（交通状況）を考慮しつつ、交通渋滞や周辺住民に配慮した運搬移動計画が提案されているかを評価するとともに、一次仮置き場からの搬出にあたっては、階上・小泉両地区の二次仮置き場への搬入割合を考慮し、円滑に運搬移動できる内容となっているかを評価する。	7.5%	
	⑥ 具体的な処理計画	階上・小泉両地区の二次仮置き場内設置プラントの稼働時間や一次仮置き場からの運搬移動計画との整合性がとれ、且つ、災害廃棄物等の種類及び性状に応じた中間処理（選別・破碎・焼却等）計画及び再利用・再生利用（有価売却含む）計画が提案されており、適正に処理できる内容となっているかを評価する。	12.5%	
	⑦ 最終処分計画	副生成物の性状に応じた最終処分方法が提案されており、適正に処理できる内容となっているかを評価する。	7.5%	
	⑧ 運営・維持管理計画	災害廃棄物等の運搬移動から最終処分に至るまでの業務の運営・維持管理計画について、緊急事態に考慮しつつ、円滑に、かつ継続して業務が遂行できる内容となっているかを評価する。	7.5%	
	⑨ 原状復旧計画	二次仮置き場用地（農地等）は、災害廃棄物等の処理後、原則として東日本大震災前の状態に復旧し返還するため、具体的な復旧計画の提案がなされているかを評価する。	5.0%	
	⑩ 業務経費削減計画	業務経費削減に配慮した提案がされているかどうかを評価する。	2.5%	
	⑪ 業務実績	過去の業務実績により、災害廃棄物を適正かつ円滑に処理する知識・経験を有した技術者を配置しているかを評価する。	2.5%	
	小計			52.5%
	環境への配慮事項	⑫ 周辺環境の保全	周辺環境（既存住宅、仮設住宅、小・中学校、井戸、河川、海域など）の保全に配慮した提案がされているかどうかを評価する。	7.5%
⑬ 作業環境の保全		作業従事者の作業環境保全に配慮し、安全衛生対策が講じられた提案がされているかどうかを評価する。	2.5%	
⑭ 地球環境保全		省エネルギー及び温室効果ガス削減に配慮した提案がされているかどうかを評価する。	2.5%	
小計			12.5%	
の地域経済へ	⑮ 地元企業との連携	地元企業を活用した業務実施体制の提案がされているかどうかを評価する。	13.75%	
	⑯ 地元雇用	地元雇用を優先した業務実施体制の提案がされているかどうかを評価する。	13.75%	
小計			27.5%	
計			100.0%	

災害廃棄物処理業務（気仙沼ブロック（気仙沼処理区））

技術提案審査 集計表

1. 価格評価 (単位：千円) (税抜)

	大成 JV	大林 JV	考 察
参考業務価格 (A)	57,482,068		各JVとも見積率が80%前後となっており、価格点はそれぞれ満点であった。
見積価格 (B)	46,100,000	45,985,000	
見積率 (C=B/A)	80.199%	79.999%	
価格評価点	60.00	60.00	

2. 技術評価

評価項目		配点	大成 JV	大林 JV	考 察
項目	細別				
業務の基本的事項	①業務の基本方針	0.8	0.32	0.32	「業務の実施体制」は、大成JVの具体的な提案が評価された。
	②業務の実施工程	1.0	0.60	0.60	
	③業務の実施体制	1.2	0.60	0.24	
災害廃棄物等処理業務計画	④自区内処理計画	3.0	1.50	0.90	「自区内処理計画」は、高い自区内リサイクル率を提案した大成JVが評価された。「運搬移動計画」は、地域の実情を的確に捉えた詳細かつ具体的な提案をした大成JVが評価された。「業務実績」は、大林JVの実績が評価された。
	⑤運搬移動計画	3.0	3.00	0.00	
	⑥具体的な処理計画	5.0	3.00	2.00	
	⑦最終処分計画	3.0	1.20	0.60	
	⑧運営・維持管理計画	3.0	1.50	0.30	
	⑨原状復旧計画	2.0	0.80	0.80	
	⑩業務経費削減計画	1.0	0.30	0.20	
	⑪業務実績	1.0	0.30	0.80	
環境への配慮事項	⑫周辺環境の保全	3.0	2.10	0.60	「周辺環境の保全」は、事前にシミュレーションを行うなど具体的な提案をした大成JVが高く評価された。
	⑬作業環境の保全	1.0	0.40	0.40	
の地域経済へ	⑭地球環境保全	1.0	0.30	0.20	
	⑮地元企業との連携	5.5	4.95	1.65	「地元企業との連携」では、現実的で実施可能な提案をした大成JVが評価された。
⑯地元雇用	5.5	3.30	1.65		
計		40.0	24.17	11.26	—

3. 価格評価+技術評価

	大成 JV	大林 JV	考 察
価格評価点+技術評価点	84.17	71.26	—

### 3) 地球環境の保全

廃棄物運搬車両や作業用重機、発電機、焼却炉等について様々な取り組みを行うことで、温室効果ガスの排出量を11% (6,562ton-CO<sub>2</sub>) 低減する。

表 2.4 温室効果ガス削減量

場所	使用機械	対策項目	CO <sub>2</sub> 排出係数 (kg-CO <sub>2</sub> /L)	無対策時		対策によるCO <sub>2</sub> 削減率	CO <sub>2</sub> 削減量 [t-CO <sub>2</sub> ]	
				燃料使用量 (kL)	CO <sub>2</sub> 換算量 [t-CO <sub>2</sub> ]			
場外	ダンプトラック	エコドライブ教育	2.62	5,923	15,517	10%	1,552	
場内	油圧ショベル	エンジン出力制御カバー eco-8 を使用	2.62	4,778	12,517	10%	1,252	
	油圧ショベル、油圧式クレーン他	燃焼促進剤 KS-1 を添加	2.62	6,337	16,598	10%	1,660	
	油圧式クレーン	油圧式クレーンの現場駐機	2.62	10	26	81%	21	
	発電機		燃焼促進剤 KS-1 を添加	2.62	3,308	8,666	10%	866
			容量低減装置を設置	2.62	2,977	7,800	10%	780
			バイオディーゼルの添加※	2.62	48	124	4.6%	124
	焼却炉	排ガスの熱を温水として回収	2.62	108	307	100%	307	
合計			—	23,489	61,555	11%	6,562	

業務計画	⑨原状復旧計画	2.0	0.80	0.80	「業務実績」は、大林JVの 実績が評価された。
	⑩業務経費削減計画	1.0	0.30	0.20	
	⑪業務実績	1.0	0.30	0.80	
配慮事項 の環境への	⑫周辺環境の保全	3.0	2.10	0.60	「周辺環境の保全」は、事前 にシミュレーションを行う など具体的な提案をした 大成JVが高く評価された。
	⑬作業環境の保全	1.0	0.40	0.40	
	⑭地球環境保全	1.0	0.30	0.20	
の地域 配慮事項 経済へ	⑮地元企業との連携	5.5	4.95	1.65	「地元企業との連携」では、 現実的で実施可能な提案を した大成JVが評価された。
	⑯地元雇用	5.5	3.30	1.65	
計		40.0	24.17	11.26	—

### 3. 価格評価+技術評価

--	--	--	--	--	--